

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200097		
法人名	有限会社福寿荘		
事業所名	グループホーム福寿荘		
所在地	熊本県八代市井揚町2552		
自己評価作成日	令和4年12月1日	評価結果市町村受理日	令和5年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和5年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、ご利用者に合ったケアやペースに合わせた自立支援に努めています。リビングから見える田んぼでは田植えや稲刈りが見られ季節の移り変わりを感じることができます。1ユニットの小さな施設ですが職員は20代から70代と幅広く、多世代家族の様な環境の中で食事の支度、簡単な家事、季節ごとのらっきょう漬けや高菜漬け作り、趣味を生かした生け花やぬりえ等をしたり、家族のような温かい光景が見られます。コロナ禍で地域交流ができない状況でありましたが、桜やつつじ、あじさい見物と感染対策を行い外出支援を行いました。管理者は1回/月校区の自治協議会に参加し地域との関わりも大切にしています。年々、重度化になっている状況ですが、「その人らしい」生活の営みが出来よう、医療機関、訪問看護、ご家族と協力しながら支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「敬愛の心」を基本とし、より具体化した6項目を作成してケアをする上での指針としている。定期的に「理念について意識調査」を実施しており、職員一人ひとりが理念について項目ごとにその意味するところを考え、自分のケアを振り返りながらケアにあたっている。食事はホームでつくり、家庭的で美味しい食事が提供されている。調理の際の匂いや音などの生活感を感じてもらったり、それぞれの体調に応じた食事を臨機応変に提供できることなどを大切にしている。また、コロナ禍の中でも感染状況を見ながら季節の花見などに出かけているとともに、ホーム内での活動を充実させ、入居者に楽しい生活を送ってもらえるよう、努めていることが伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をリビングに掲示し、全体会議の前に唱和し意識づけをしている。理念について職員一人ひとり振り返りを行い日々の支援に取り組んでいる。	理念は「敬愛の心」を基本とし、より具体化した6項目を作成しており、ホーム内の数か所に掲示して、毎月の全体会議で唱和している。定期的に「理念について意識調査」を実施しており、職員一人ひとりが理念について項目ごとにその意味するところを考え、自分のケアを振り返る内容となっている。今後も定期的に実施したいとしている。	調査実施後に職員間で話し合う機会を持つと、ケアに於ける理念の共有が図られ、さらに良いと思われる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月の自治会に出席し地域の情報を得たりしている。コロナ禍のため、毎年参加していた地域の夏祭り、地域防災訓練の参加や校区民体育祭、保育園の慰問は中止となり交流ができなかった。11月に妙見祭の花奴組に来荘して頂き、3年ぶりの演武が見られた。	管理者は校区長、町内会長、小・中学校、警察、福祉施設など、地域の各種関係機関からなる自治会に毎月出席し、情報交換をしている。コロナ前は、地域の夏祭り・地域防災訓練に参加したり、保育園との交流など行っていたが、現在は中止となっている。コロナが落ち着いた際には、これら行事への参加や、管内5つの介護事業所で行っている認知症カフェの再開をしたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で運営推進会議は開催出来ませんが、ホームでの生活の様子を写真付きの資料を配布し認知症の理解を深めて頂き、支援の仕方をお伝えしている。コロ以前は他事業所と連携しRUN伴八代の参加を通じ市民への認知症啓蒙活動を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で紙上会議の方法を取り、ご利用者の暮らしぶりや行事活動を写真を用いてご説明し、職員の状況、事故、入退院、ヒヤリハットなど資料配布をもって報告を行っている。	コロナ禍の現在、運営推進会議は書面で行っている。活動報告、入居者の状況、事故・ヒヤリハットの状況等を記載した資料を委員に持参し、その際、情報交換を行っている。資料は写真を多く取り入れ、活動内容が分かり易いものとなっている。	会議の資料に関する感想・意見等が得られるような工夫も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染防止のため運営推進会議に参加して頂くことは出来なかったが、資料を毎回お渡ししている。運営するうえで、不明点は電話で確認し連携を図っている。また、運営指導についての部会の研修会に講師として来ていただいた。	包括支援センターとは、一緒に行事を企画したり、地域ケア会議への参加などで常に連携を図っている。市担当者とは、運営上の不明な点など、その都度電話で話したり、提出物を持参した際に相談するなどしている。現在、管理者がグループホーム連絡会のブロック会会長であり、市とのやり取りも多く、市担当者に研修会の講師を依頼するなど協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会で、不適切ケアについて話し合いケアの改善に努めている。玄関の施錠については夜間帯以外はオープンにしている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催しており、例えば眠らない利用者には、薬を使わずに眠ってもらうためにどうしたらいいかなど、職員間で、拘束をしないための対応について話し合っている。また、「ちょっと待って」にはその理由を説明したり、言葉が命令口調にならないようにといった言葉遣いに関する研修を行ない、身体拘束をしない意識の浸透を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部内研修にて研修会をおこない、全職員にレポートを提出してもらうことで虐待についての意識を再確認し、自分たちのケアを振り返っている。虐待防止チェックリストの実施を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されるご利用者をご家族、司法書士と連携し支援をおこなった。制度についての勉強会に参加し、熟知しているよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明を行い、不安や疑問点を尋ね、理解、納得を頂いている。介護保険制度の改定の際は変更点をご説明し、同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍により、ご家族などの面会規制をせざるを得ない状況の中、毎月写真とお手紙を同封し近況をお伝えしている。感染リスクレベルに応じた面会時や日用品の持ち込みの来荘の際やプラン説明時には変更の説明やご家族のご要望を確認している。	現在、面会は窓越しに行っている。面会時や利用料の支払いに来られた時、電話等で近況を伝え、意見・要望等を尋ねているが、意見等はほとんど聞かれていない。毎月、担当者が入居者の写真と近況を記載したお手紙を家族に送付し、安心に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議、申し送りの時間に意見や提案を出し合い運営に反映させている。日常的に意見や提案を発言しやすい環境にある。	毎月の全体会議で、個々のケアに関してや行事についてなど検討している。また、日常生活の中で、必要に応じその都度その場にいる職員で話し合い、意見を反映してケアを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表が管理者を務めている為、職員個々の勤務実績等の把握ができており、希望休を踏まえたシフト作成を行い融通性や有休取得によりリフレッシュできるよう配慮している。会議での意見から必要な備品を購入し質の高いケアに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修の機会が減り、資料作成し内部研修を行った。新人職員が入職し動画を活用した研修を受けてもらったり、力量を把握しながらOJTを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会やブロック会へはリモートで参加し、情報共有しサービス向上に役立てている。コロナ感染対策を行いながら市内のブロック会で各事業所の管理者が集まり、行政と一緒に運営に関する研修会を開催し、情報交換ができた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人やご家族との事前面談で生活状態やご本人の思いに向き合っている。日々のかかわりの中で傾聴しご利用者の思いに寄り添いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの役割やご家族と一緒に支援していくこと、協力が必要なことをお伝えした上で、入所初期はこまめにご家族に連絡したり、困っている事や要望等をお聞きし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じながら生活面・健康面・経済面等の状況を把握し、グループホームに限らず、ご本人に適したサービスが利用できるように、他事業所の相談員とも連携を取り紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを見つけて発揮できるように環境を整えて働きかけている。職員も節度をもって家族のように接し、一緒に作業に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や遠方のご家族へは電話で生活状況をお伝えしたり、毎月、担当職員よりホーム内での様子について写真付きの手紙を送付している。ホームの行事へも参加していただき、共にご本人を支援していく関係作りに努めているが、現在はコロナ禍で控えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症対策をしながら、娘様の葬儀への出席のため障害の重いご利用者を支援した。県外のご家族や親戚の方と電話で話されたり、県外の娘様との手紙のやり取りの支援を行い、馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。	現在は、家族との面会の他、年賀状・暑中見舞いを書いたり、娘と手紙のやり取りをする利用者の支援、品物が送られてきた時にお礼の電話をするように促すなどしている。また、要望や状況に応じ、葬式への出席や家に洋服を取りに連れて行くなど、馴染みの人や場所との関係継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症のレベルや性格、お互いの共通性を把握し、気の合うご利用者同士が交流を楽しめる場を設定したり、全員が和が持てる活動を行うことで共同生活が円滑になるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居後も面会に行き、その後の経過を知る機会を得ている。必要に応じて生活状況や支援内容の情報提供し相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	重度化が進み言葉で意志表現できるご利用者も減ってきており、行動や表情に配慮しながら言葉にならない思いを感じ取ることができるよう努めている。また、日頃の寄り添いの会話の中から希望や意向をくみ取るよう努めている。	思いや意向を伝えることが難しい入居者も数名おり、はい・いいえで答えられるような質問で尋ねたり、表情から好き・嫌いを推測して意向の把握に努め、気づきを職員間で共有している。生花の師範だった人には、毎週お花を買って来て活けてもらったり、家事が出来る方にはお盆拭きや洗濯物たたみを手伝ってもらったりと、好きなこと・得意なことが継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご利用者、ご家族、以前のケアマネージャーにもこれまでの暮らしぶりをお聞きしサービスにつなげている。ここで得た情報を職員全員が把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定、食事、水分量、排泄排便チェック、1回/月の体重測定を行い健康状態を把握している。活動内容、その後の様子を記録し、申し送り、変化や発見など職員間で情報共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から日中・夜間帯の生活状況を聞き取り、ご家族の意見等を確認し計画書を作成している。訪問歯科や訪問看護、PT・ST等からのアドバイスも取り入れている。	3か月ごとに全体会議でモニタリングを行い、訪問歯科や訪問看護、PT・STのアドバイスも得ながら、半年ごとに計画の見直しをしている。入居者一人ひとりがどこまでできるのかを見極め、できるところは自分でやってもらい、どの部分を支援するのかの検討を大切に計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子、発言、変化を個人記録に記入したり、申し送り表を活用し職員が情報共有できるようにしている。記録をもとに介護計画の評価、見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合により受診の付き添いや入院中の着替えを届けたり、入退院の送迎の支援を行っている。入居中に指定難病になったご利用者には訪問看護のPT・STの利用により支援を行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事、地域のお祭り、認知症カフェ、小学生や園児、他事業所との交流はコロナ禍で中止になっている。感染対策をしながら、本町アーケード街に行き妙見祭りの笠鉾見物や買い物をする事で地域の方と交流ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医にご家族付き添いで定期受診をお願いしている。受診の際は受診連絡表をお渡ししている。車椅子利用等で受診が困難になった場合は、同意を得て往診してもらえる医療機関に変更している。訪問歯科の医師による口腔内チェックや治療、歯科衛生士による定期的な口腔ケアを支援している。	基本的に入居前のかかりつけ医を継続しており、通院が困難になった際は往診ができる医療機関に変更している。訪問看護ステーションと24時間対応の契約をしており、週1回全員の健康チェックを行っている。夜間・緊急時も訪問看護ステーションのアドバイスを獲得している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と契約して24時間連絡できる体制ができており、1回/週の訪問でご利用者の健康チェックして頂いている。日々の気づいたことを訪問看護師へ相談している為、適切な受診や治療が行えている。訪問看護師による健康チェックも実施されている(1回/週)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を出している。コロナ禍で面会が出来ないため、医療連携室と連絡を密に行い入院中の状況を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時書面で、重度化した場合における指針などをご説明している。ご利用者の状態の変化に応じて、医療的処置が必要になった場合に医師やご家族と話し合い、ホームで出来る最大の支援を行うようにしている。	重度化した際は、訪問看護ステーションと医療機関との連携の下、本人・家族の要望に沿ってホームで出来る限りのことを行う旨、入所時に説明している。医療行為がほとんど不要で、ホームで最期を迎えたいという希望があれば、看取りを行う方針であり、職員への説明・研修を行う他、看取りに入ったら夜間を2名体制にすることとしている。	看取りを行うにあたっては、看取りケアの研修を継続的に行うなど充実を図り、より良いケアができるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションと24時間電話相談体制の契約をしており、急変や事故発生時に連絡し応急処置の方法を実践しながら体得に努めている。本年度は専門家に来荘して頂き新型コロナウイルス感染症対策に特化し発症時のゾーニング、防護服の着脱方法を学び、アドバイスを受けながらシュミレーションを行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼・夜を想定した訓練を防火設備会社の立会いのもとご利用者と共に実施。運営推進会議で委員の方や町内の消防団、近隣住民、消防署員の合同の訓練はコロナ禍で実施できていない。非常食の保管、管理しており実際に食べる実践も行っている。	年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。コロナ前は、消防署・消防団・運営推進会議委員・地域の方などと合同で訓練を行っていたが、現在は中止している。津波時など垂直避難が有効な際は、近くの3階建ての老人保健施設に避難したいと考えており、駐車場までの避難訓練も実施している。	コロナ収束後は、地域の方々との合同避難訓練の再開が期待される。また、老人保健施設への避難については、早い時期に打ち合わせを行い、協力体制を築いておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、ご利用者が理解しやすいよう温かみのある方言、馴染みの言い方を心掛けているが、関係がなれ合いになり配慮にかけた声掛けの場面がある。トイレや入浴時は尊厳や羞恥心に配慮し対応している。	言葉遣いを大切にしており、命令口調にならないよう、子どもに言うような言い方にならないよう、指導している。トイレでは必ずドアを閉める、入浴時は一つ一つ声を掛けながらゆっくり着脱する、名前の呼び方は苗字にさんづけで行うなど、尊厳を保ち、プライバシーに配慮した介護を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご利用者の思いや希望を引き出せるような言葉かけに努めている。自己決定が困難なご利用者にも声掛けしご本人の思いに近づけるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはご利用者のペースを大切に、過ごしていただくよう支援している。体調や気分が配慮しながら無理のない範囲で趣味の生け花をされたり、塗り絵や絵を描かれたり散歩に出かけられたり活動の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや髭剃りができる方はご本人に決めて頂いている。支援が必要な方は職員が季節に合ったものを用意している。化粧水をご利用の方には入浴後に支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るときにはご利用者と一緒に調理の下ごしらえやお盆拭きを手伝って頂いたり、らっきょう漬けや高菜漬け、干し柿作りを一緒に行うことで季節を感じて頂いている。調理ができられない方は味見をして頂くことで調理の楽しみの支援をしている。	食事はホームで職員のローテーションで作っている。調理の際の匂いや音など生活感を大切に、こだわりを持って家庭的な食事を提供し、職員も同じ食事を摂っている。お正月・雛祭り・敬老会・クリスマス会など、季節に応じた行事食を提供し、また、毎年らっきょう漬け、高菜漬け、干し柿をみんなで作って季節を感じるなど、食を楽しむ機会が多く作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嚥下状態に合った形態、体調に合わせた形態に変えたり柔軟に対応している。一口大のおにぎりに変更したことで自力で食事ができるようになった方や水分を好みの飲料で提供したり、ジュレを作り水分を多く摂って頂けるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合った歯ブラシやスポンジを使用しケアを行っている。また、ご利用者の方の力に応じた自立支援を行っている。訪問歯科による、口腔ケア、相談、指導を受けている。定期的に歯ブラシの消毒、入れ歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表からパターンを把握し、日中は介護度5の方も全員トイレ誘導しトイレで排泄支援をし汚染を減らしている。夜間歩行が困難な方はポータブルトイレを使用して頂き自立支援に努めている。排泄用品を使い分けし自立や気持ちの良い排泄支援に繋げている。	排泄が自立している方が1名いる他、日中は重度の方も含め、全員トイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレ使用の方、パット交換の方など、状態に応じて支援しており、夜間の尿量を把握し、その人に合った大きな尿取りパットを使用し、できるだけ睡眠を妨げないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材やバナナや乳製品等を提供し、自然排便を促している。腹部マッサージ、また水分の摂取量を把握しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を行っている。個々の状態の応じ、職員一人介助と二人介助で支援している。気分や体調に合わせて時間や日にちを変更したり柔軟に対応している。	入浴は基本的に週3回実施しており、希望する場合は毎日でも入浴できる。4名の方は入浴用車いすを使用し、2人介助でシャワー浴を行っており、安心・安全と職員・入居者の負担軽減を図っている。季節に応じ、ゆず湯、しょうぶ湯、晩白柚のお風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りの浅い方は日中散歩に出かけたり活動して頂いている。生活習慣やその時々状況に応じて自室で休息して頂いている。気持ちよく眠れるよう温度、湿度、布団の調整を行っている。習慣でCD音楽を聴きながらお休みされる方の対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個別にファイル保管いつでも確認できるようにしている。変更時は、訪問看護師に報告、職員間で副作用等確認し申し送り情報提供し、次の受診まで状態変化に気を付け記録を行っている。嚥下状態に応じて飲みやすい形状での薬を主治医や薬剤師へ相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた家事の役割等をお願いし、感謝の気持ちを常に伝えている。生活歴に応じ生け花をされたり、塗り絵や絵を描かれたり、歌を唄ったり日課の歩行運動等が継続できるよう支援している。重度化した方もリビングで日光浴していただくなど支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、地域の夏祭りやイベントは中止の為実施できていない。コロナ感染対策をして季節の花見の外出、本町アーケード街へ妙見祭りの展示物の見物などの支援をしている。外出困難な方も近隣の散歩や景色を楽しんで頂いている。	天気が良い日は散歩に出かけたり、ホームの駐車場にテーブルを出しておやつを食べたりして楽しんでいる。また、感染対策をした上で、季節の花見や妙見祭の展示物を見に出掛けるなどの支援を行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かり管理している。初詣では小銭を持ってもらい賽銭箱に入れて頂いている。買い物に行った際は出来られる方は支払いの支援を行う良いにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物が届いた際は、お礼の電話をして頂いたり、県外に住む娘様との定期的な手紙のやり取りや電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングにはご利用者に季節のお花を生けて頂いている。夏季には朝顔等の緑のカーテンを作り季節感と共に光の調整を行っている。リビングにはソファを配置し寛いだり、団らんの場となっている。	リビングには、テーブル・椅子・ソファ・テレビなどが配置され、日中はほとんどリビングで過ごしている。昼食後、みんなでドラマを見たり、おしゃべりをしている様子がみられた。お部屋に戻ってしばらく昼寝をする方もおり、それぞれ自由に穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数のソファを配置して落ち着かれる場所でテレビを見られたり、新聞を読まれたりしている。気の合ったご利用者同士で家事や料理の下ごしらえができるよう工夫している。移動が困難な方は声掛けし落ち着かれる場所へ誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけご利用者の使い慣れた物、馴染みの物、ご家族の写真、仏壇などを自由に持ち込んで頂き、居心地よく過ごして頂けるように配慮している。	居室には、タンス・衣装ケース・テレビ・CDラジカセなど、馴染みの物や必要な物が配置され、家族の写真や似顔絵・花などが飾られている。ベッドは、それぞれの身体状況や家庭での習慣などに応じて配置を変えている。枕元に時計を置いたり、灯りの紐を滑りにくいようにところどころ結んだり、ナースコールし易いように紐を取り付けたりと、それぞれが過ごしやすいような工夫が見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を把握し、補助具の使用や、理解しやすいように貼り紙を利用したり、コールを使いやすいように環境整備し出来る限り自立した生活が送れるように工夫している。		